

京安全通信 ～安全な学校生活を目指して～



令和 6年 9月

其の五「防災について考える②」(地震編)
～関東大震災から学ぶ(過去に学び未来を創る)～

京都市教育委員会事務局 体育健康教育部
京都市立中学校教育研究会 安全教育部会

9月に入りました。とはいっても、まだまだ暑さが厳しいですね。引き続き、熱中症にはくれぐれも注意しましょう。学校によっては、体育大会や文化祭等、学校行事を控え、その準備や取組を進めていることかと思えます。何かと忙しい時期にもなりますので、事故に遭わないように、ケガをしないように、気をつけましょう。さて、今回のテーマは「防災について考える②」です。101年前に発生した関東大震災のことを知り、その教訓を生かし、防災・減災のために必要なことを考えてみましょう。



「関東大震災から学ぶ①(過去に学び未来を創る)」



「関東大震災」とは・・・?

大正12年(1923年)9月1日11時58分に、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9と推定される関東大地震が発生しました。この地震により、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県で震度6を観測したほか、北海道道南から中国・四国地方にかけての広い範囲で震度5から震度1を観測し、10万棟を超える家屋を倒潰させました。また、発生が昼食の時間と重なったことから、多くの火災が発生し、大規模な延焼火災に拡大しました。

この地震によって全半潰・消失・流出・埋没の被害を受けた住家は総計37万棟にのぼり、死者・行方不明者は約10万5000人に及ぶなど、甚大な被害をもたらしました。



神奈川県中郡大山町(現伊勢原市内)で9月15日に発生した土石流災害(伊勢原市議会事務局蔵)



現銀座四丁目交差点付近の焼跡(東京市『東京震災録』)

災害救護にあたっては、現代で言うボランティアとも言うべき住民同士の助け合いや、海外を含む遠隔地からの支援が大きな役割を果たしたことが知られています。

<近年の大震災との比較>

	関東大震災	阪神・淡路大震災	東日本大震災
発生年月日	1923年(大正12年) 9月1日(土)午前11時58分	1995年(平成7年) 1月17日(火)午前5時46分	2011年(平成23年) 3月11日(金)午後2時46分
地震規模	マグニチュードM7.9	マグニチュードM7.3	マグニチュードMw9.0
直接死・行方不明	約10万5千人 (うち焼死 約9割)	約5,500人 (うち窒息・圧死 約7割)	約1万8千人 (うち溺死 約9割)
災害関連死	—	約900人	約3,800人
全壊・全焼住家	約29万棟	約11万棟	約12万棟



「関東大震災から学ぶ②(過去に学び未来を創る)」



東京市(当時)の約4割焼失 猛威を振るった火災

地震の発生時刻が昼食の時間帯に重なり「かまど」や「しちりん」などを使っていたこともあって同時多発的に火が出て次々と延焼しました。当時の東京市(現在の千代田区や港区、台東区など)では、130 か所余りで火災が発生し、このうち70 か所以上で消し止められず、火が広がったとみられています。

焼失面積は34 平方キロメートル余りと東京市の約4割を占めました。この日は日本海から東北へと台風が通過していた影

響で、関東地方でも強風が吹いていたことも火災を広げた要

因だと分析されています。当時の本所区にあった被服廠跡(現在の墨田区)と呼ばれる工場の跡地では、避難していたおよそ3万8000人が四方から迫る火災と、炎を含んだ**竜巻状の渦が発生する「火災旋風」**によって犠牲になったということです。



斜面崩壊や地すべり 津波被害も相次ぐ



激しい揺れなどにより東京、神奈川県、千葉県、山梨県、静岡県の上沿いの各地で土砂災害が発生しました。神奈川県の根府川では大規模な土砂災害が発生し、駅に止まっていた列車がホームごと海に流され、200人が死亡しました。その後の大雨によっても、土石流などの土砂災害が各地で発生しました。

関東や静岡県などの沿岸で**大津波が観測**され、高さは静岡県の熱海で**12メートル**、千葉県の館山で**9メートル**に達したとされています。

震災を教訓にした復興計画

その後、「帝都復興計画」などをもとに東京や横浜市では土地区画の整理や河川の改修、「昭和通り」など舗装された幹線道路の新設も進みました。こうした復興事業を通じて新しい町並みが誕生し、東京の銀座や京橋は「晴海通り」の拡幅で次第ににぎわいを取り戻しました。

今後、高い確率での発生が予想されている「首都直下地震」への備えを

関東大震災の教訓は日本の防災対策の礎になっています。関東大震災から101年。首都圏の町並みは様変わりし、日々の暮らしの中で、当時の甚大な被害の様子を感じることは少なくなっています。

しかし、首都圏の下では3枚のプレートが押し合うことで、ひずみが蓄積されていて、国は、マグニチュード7クラスの地震「首都直下地震」が**30年以内に70%程度の確率で起きるおそれがある**としています。101年前の教訓を改めて学び、自らできる備えを1つずつ積み重ねていくことが重要です。

過去は我らの糧となり、未来は我らの夢となる

※ 参考:「災害列島 命を守る情報サイト」NHK



「災害(地震)に備えて」



安全ノートで学習しましょう

安全ノートに阪神・淡路大震災のことや京都での過去の地震のことなどが掲載されています。いつ発生するかわからない地震に備えて、学習しておきましょう。

＜安全ノートの主な内容＞ ●地震への備えとして、どのようなことがあるか調べてみましょう。

●地震が起こった時、どういう行動をとるとよいのか、イメージしてみましょう。

※ 関連:安全ノートP.23～30「災害(地震)に備えて」